

1. G I G Aスクール構想に伴う学校現場の「I C T支援員」体制とI C T教育について

- (1) I C T機器の導入後に伴う「I C T支援員」の確保と育成について
- (2) I C Tとアクティブラーニングの視点でより魅力的な授業の実現に向けての取組みについて
- (3) 地域のボランティアや学生の活用も含めてのI C Tサポート体制作りを
- (4) 特別支援学級の子どもがI C T機器を必ず利用できる環境づくりと教員の研修について

【答弁】

1. G I G Aスクール構想に伴う学校現場の「I C T支援員」体制とI C T教育についての(1)から(4)につきまして、順次お答えいたします。

まず、(1)についてお答えします。

G I G Aスクール構想により、学校現場では急速なI C T化が進むこととなります。今後、児童生徒も教職員も、ともに新しい機器の操作に慣れていく必要があると考えておりますが、授業で使用するための端末の準備や、トラブルへの対応などで教職員の負担が増大することも予想されます。

こうした教職員の負担軽減や、操作に戸惑っている子どもたちのサポートを行うには、議員ご指摘のように、I C Tに関する一定の知識に加え、子どもたちに丁寧に関わることができる人材をI C T支援員として配置し、育成していくことが重要であると認識しております。

本市教育委員会といたしましては、近隣他市町村の状況もふまえ、I C T支援員の配置等について研究を進めてまいります。

次に、(2)についてお答えいたします。

本市におきましては、現在、研究委嘱校にてプログラミング教育をはじめ、様々な教科の授業でI C Tを活用する方法について研究を行い、昨年度の中間発表に続き、今年度中に研究成果の発表を行う予定です。加えて、I C Tの活用に向けましては、7月末に、一つの教室から複数の教室に授業映像をオンライン配信する研修を行いました。

今後は、ICTを用いた分かりやすい授業づくりや、お互いの意見を共有し、様々な意見をふまえて自分の考えを深めていくような、アクティブラーニングの視点による魅力的な授業づくりに向けて、研究に取り組んでまいります。

次に、(3)についてお答えいたします。

議員ご提案のように、学生や地域のICTに堪能な方々にボランティアとして学校を支援していただくことは、教職員の負担軽減に加えて、大学や地域との連携強化につながるものと考えております。

本市には、学習サポーターという制度もございますので、ボランティアや学生等を活用した体制作りに向けて、この制度を活用することを検討してまいります。

次に、(4)についてお答えいたします。

本市におきましては、支援学級在籍の児童生徒が1人1台の端末を利用できるように整備を予定しているところでございます。また、これまで、支援学級担当の教職員を対象に支援教育研修を年間10回程度実施し、iPadの活用方法やアプリの利用法等についても研鑽を重ねております。

今回、導入予定のiPadにつきましては、支援が必要な子どもたちにとっても操作が容易で、優良な教育用アプリも数多くありますことから、こうした研修もふまえ支援学級在籍児童生徒の学習において、今後、有効活用に努めてまいります。

以上、お答えとさせていただきます。